



「真のキャプテン」 林尚希選手 (平成25年入部)

西川監督から贈る言葉



林は、高砂大会中のバックネット裏で次試合の観戦をしていた時に、中村監督から紹介をしてもらいましたが、髭を生やしてジーンズのラフなスタイルを見て真剣に再び野球に取り組む気があるの？が最初の印象でしたが、中村監督は「今度は真面目に野球に取り組み、きっと箕島さんの力になるはずです」と勧めてくれました。

入部直後は、代打や途中出場が多く、なかなか思うような結果がでませんでした。第39回全日本クラブ選手権では、代打でバックスクリーンへ逆転の本塁打を放ち存在感をあらわしましたね。

ただ、当時は一塁までの全力疾走で、大北主将からよく注意を受けていました。

3年目からは4番DHのポジションに定着し、持ち前の長打力を発揮して活躍をし、特に紅白戦？でライトのネットを越えてサッカー場に飛び込んだ打球は圧巻の飛距離でした。ただ、西武ドームではあの本塁打以外は嫌われ続け、結果が出せずにいましたね。

4年目にはキャプテンの就任を依頼したものの「人前で喋れない」と一度は固辞をしましたが、受諾した後は、後輩達から「兄者」と慕われ良いか悪いかは別にして和やかなチームの雰囲気になりました。

就任1年目は、まさかのクラブ出場を逃がしてから、林キャプテン自身が少しずつ変わっていくのが分かりました。膝の状態がおもわしくなくても弱音は一切はかず、背中で語りながら、注意する時は先輩後輩関係なく言うことはキチット言う、「真のキャプテン」に成長し、4回目の日本一を勝ち取り、日本選手権初勝利のキャプテンとはなりませんでしたが、素晴らしいチームにまとめてくれました。

これからの第2の人生に、「更に進化したキャプテン」を目指して頑張ってください。